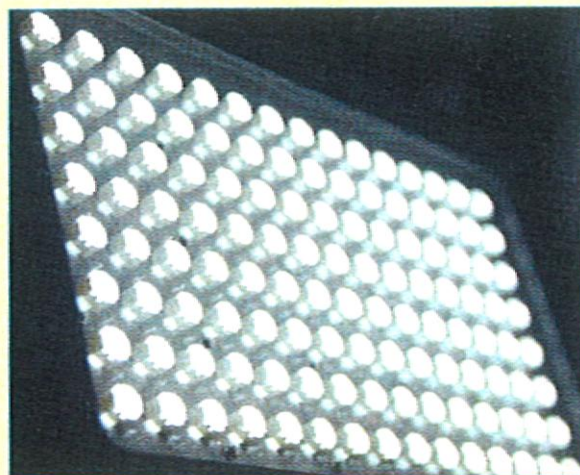


平成の大修理中の姫路城ライトアップに一役

2009年から始まった「平成の大修理」が2015年までの予定で行われているユネスコ世界文化遺産の姫路城。大天守の屋根修理と漆喰塗り替えが今回の大修理の主な作業で、工事期間中は大天守を覆う形で素屋根と呼ばれる工事用建屋が設けられている。この素屋根をLEDでライトアップして、姫路市の夜景を彩るのに一役買っているのが、大阪市にある照明設備メーカーのドゥエルアソシエイツだ。



修理後の大天守の完成予想図が線画で描かれた素屋根のライトアップにあたっては、今年3月にドゥエルアソシエイツが同じ大阪市内にある日本ネットワークサポートと共同でLED投光器を10台寄贈し、設置した。それまでのライトアップに使用していた水銀灯に比べ明るさは4~5倍、消費電力は10分の1になり、虫を寄せ付ける波長の光が出ないため、クモの巣などが減るので、大天守の線画もくっきりと見えるようになり、見た目も美しい素屋根になった。LEDによるライトアップは、素屋根内部の大天守修理見学施設「天空の白鷺」が設置されている今年度から約3年間、続けられる。